

『私を創ってくれた3つの作品』

スペースデザイン部会員 岡本 泰子

1. オフルーム技法との出会い



『Blue'94』 (W800 cm × H200 cm)

素材:サイザル麻(片撚り) / 技法:フリーテクニック(針で編む) / 構造:
skipped linking

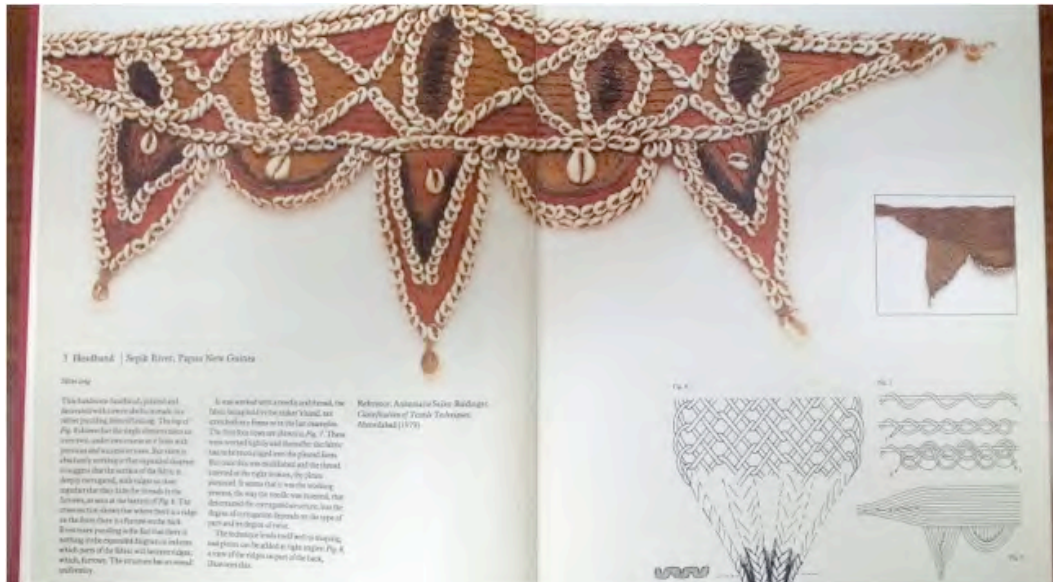
学生の頃、大学の先輩かつファイバー界のパイオニアである嶋貫昭子先生の集中講義があり、ファイバーアートとオフルーム技法の世界を知った。

もともと素材と構造で表現する立体作品に興味があり、オフルームでの制作展開に憧れていたが、いきなり素材を使いこなせる訳も無く、仕方なく織機を使った技法で模索していた。それから数年後、嶋貫先生のご自宅で洋書を読む勉強会「puzzle会」に参加する機会に恵まれた。

そこでは、Peter Collingwood 著 “THE MAKER'S HAND A Close Look at Textile Structures ” (1987) (糸状の要素が機能的な構造を有すものを中心に作り方を分析、図式化したもの) に掲載されている世界の手仕事をテーマ毎に和訳しサンプルを作る。その中で後の道標となる、ある技法に出会った。

それはパプアニューギニアの民族が身につける装飾品を解析したもので、本来はもっと小さく緻密な構造なのだが、織作品で使っていたサイザル麻で試作したところ、元の装飾品とは全く異なる伸縮性のある強い構造の布が出来上がった。

素材の違いで独特の編み目や畝が生じることに興味を持ち、この技法による作品づくりが始まった。織機によって織られた布と、編むことで面となった布では、作業の制約や布の性質が異なってくる。それまで素材感として扱っていたサイザル麻が、より無理なく形を成す方法としてこの技法は適していた。紺糸で編んでみると織物とは違ったステッチのようなディテール表現が可能になった。針と一本の糸というシンプルな技法だが、むしろ応用が可能であり、制作展開への可能性を感じた。この技法で翌年第59回新制作展に初出品、初入選した。



Peter Collingwood 著 “THE MAKER'S HAND A Close Look at Textile Structures ” (1987)

2. 「命を内包する」かたちで生命感を与える



『nest 2009』(第73回新制作展 W20cm×D20cm×H20cm)

素材：糸芭蕉 / 技法：フリーテクニック（編む） / 構造：skipped linking

1994年より自宅での制作となり、狭い空間で大きな作品制作をする手段として、ユニットやパーツ構成による方法で表現した。

平面的に扱っていたパーツのジョイント方法を工夫し、立体的な表現を試みた。

任意の位置を染める事に作為を感じ、素材のままで形と表情を見せる作品制作へと変化する。

大きな作品は、吊ってテンションを加える事で膜状構造建築のような表情を出す醍醐味があるが、素材自身では立体として自立出来ない。

2009年、SD部にミニアチュール部門が設置されたことをきっかけに、支持体なしで自立する立体作品に取り組んだ。

この年は「自然からいただいた命」を大変身近に感じており、素材も自ら現地で収穫する事に拘った。

3. 新たな表現



『nest 2011-1』(第75回新制作展 W20 cm × D20cm × H20 cm)

素材：レーヨン / 技法：ニードルワーク

2010年から生活環境が変わり、ひたすらパーツを編むといった制作が難しくなった。

そこで同テーマでの新たな表現技法として「刺繍ミシンで糸を不規則に縫い重ねて面を作る」ことに着目した。

家庭用ミシンの中には縫製機能に加えて、刺繍機能を持つ「刺繍機つきコンピューターミシン」というものがあり、一般的には内蔵された文字・模様・キャラクターのデータを服や小物に刺繍する目的で使われる。

その中でも専用ソフトによってオリジナルのデザインが縫える機種を使用し、造形表現での利用を試みた。

一般的に入手可能な機材・素材を利用し、変換データの出力や手仕事のみでは難しい造形表現が可能な興味深い技法である。

このように「命を内包する形」をテーマに、繊維素材を使ったオリジナル技法の立体作品を制作してきた。

同時に古生物に命を吹き込む復元画「サイエンティフィックイラストレーション」も手がけており、かたちや構造の美しさを見つける貴重な場となっている。

これからも環境によって表現方法やサイズを変えながら「自然形態への興味→作品へと昇華」という関係性を続けて展開の可能性を探っていきたい。



1990 東京藝術大学美術学部工芸科卒業
1992 同大学院美術専攻科工芸専攻修了
1990 国立科学博物館古生物第3研究室技術補佐員（～1992）
1993 東京藝術大学非常勤講師（～1995）
2000 文星芸術大学（～2013）
2014 文化学園大学 准教授（～現在）

【展覧会】

1995 新制作展（1997, 2001 新作家賞受賞）（～現在）
2002 こころのパンプロジェクト展（トルコ）（～2003）
2005 新制作協会 会員推挙
2007 シルクロードプロジェクト展（ローマほか）
2010.11.13.15.17.19 テキスタイルアート・ミニアチュール展 1～6（東京・大阪・金沢・福岡）／ほか
2011 The Nature Spirit 展（スペイン）
2013 - 2014 スロバキア 日本交流ミニアチュール展 - 外交樹立20周年記念 -（スロバキア）
2016 第3回日本トルコ友好作品展（東京・ギャラリーマルヒ）
2017 緋 - 染織開設50周年記念展（東京藝術大学 陳列館）
その他、グループ展、個展など

<著書・掲載書籍>

新版 絶滅哺乳類図鑑（丸善）、動物デッサンテクニック（誠文堂新光社）、動物がすき！（福音館書店）、小学館の図鑑NEO シリーズや国立科学博物館での展示解説イラスト（常設展示、大恐竜展、生命大躍進、ラスコー展ほか）など

新制作協会会員 / JTC 日本テキスタイルカウンセラー理事 / 文化学園大学 准教授